

全国月間火山概況（平成 27 年 10 月）

口永良部島の新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。二酸化硫黄放出量はやや少ない状況でした。

地殻変動観測では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められません。

火山活動が高まる傾向はみられないことから、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものと考えられます。しかしながら、5月29日の噴火前にみられた島の隆起が維持されていることから、引き続き噴火の可能性があり、火砕流にも警戒が必要と考えられます。

このことから、21日18時00分に噴火警戒レベル5（避難）を切替えました。

火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。新岳火口から半径1.4海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがありますので、噴火に警戒してください。

桜島では低調な火山活動となっていますが、これまでも繰り返し噴火活動が続いており、長期的な始良カルデラの膨張が認められます。このため、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

阿蘇山の中岳第一火口では、23日02時59分と06時02分に小規模な噴火が発生しました。02時59分の噴火では、噴煙が火口縁上1,400mまで上がり、火口周辺に大きな噴石が飛散するのを確認しました。06時02分の噴火では、噴煙が火口縁上1,600mまで上がりました。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いており、当分の間は9月14日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒してください。

雌阿寒岳では、10月1日に実施した現地調査及び上空からの観測（海上保安庁の協力による）により、今年7月の現地調査と比較してポンマチネシリ第4火口の火口壁における地熱域のわずかな拡大や、96-1火口の噴煙の勢いの増大を確認しました。その後、11月2日から5日に実施した現地調査では、前回（10月）と比べてポンマチネシリ第4火口の地熱域の広がりや、その他の火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

全磁力連続観測では、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化が継続しています。

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な火山性地震は、8月下旬以降少ない状態で経過しています。

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が続いています。

11日から12日にかけて実施した現地調査では、大穴火口内及びその周辺で2013年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認しました。また、14日から15日にかけて大穴火口周辺で実施した全磁力繰り返し観測では、大穴火口周辺の地下での熱活動が活発化している可能性が考えられるデータを引き続き観測しました。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

草津白根山では、9月29日から10月2日にかけて実施した現地調査及び13日の上空からの観測（陸上自衛隊東部方面航空隊の協力による）で、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態の継続と北側噴気地帯で噴気活動が活発化しているのが認められまし

た。また、東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分に火山活動の活発化を示す変化が継続しています。

湯釜火口から概ね1 kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は多い状態が続いています。また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過しています。

14日に実施した上空からの観測（陸上自衛隊東部方面航空隊の協力による）では、山頂火口内の火口底中央部及びその周辺に高温領域が引き続き認められました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2 kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

御嶽山では、7日に実施した現地調査で火口列からの噴煙活動を確認しました。地震活動は低下した状態で経過していますが、昨年（2014年）8月以前の状況には戻っていません。御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

箱根山では、大涌谷で7月1日に発生した噴火以降、噴火は観測されていません。

火山性地震は少ない状態で経過しています。GNSS¹⁾連続観測でみられていた箱根山を挟む基線での伸びは8月下旬頃から停滞しています。

地震活動には引き続き低下傾向がみられるものの、4月の活動活発化以前の程度に戻るまでは、引き続き大涌谷周辺の火口や噴気孔での小規模な噴火の可能性があると考えられます。また、噴気活動も緩やかな低下傾向がみられるものの活発な状態です。

大涌谷周辺の想定火口域では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）では、火口直下を震源とする火山性地震が時々発生しました。

GNSS¹⁾観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられます。

火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島の御岳火口では、2日と13日及び31日に噴火が発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

表1 11月10日現在の火山現象に関する警報及び予報の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島*
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	阿蘇山、桜島
	入山危険	西之島*
	レベル2（火口周辺規制）	雌阿寒岳、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、箱根山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島*
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場*
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開間岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警報も発表中。

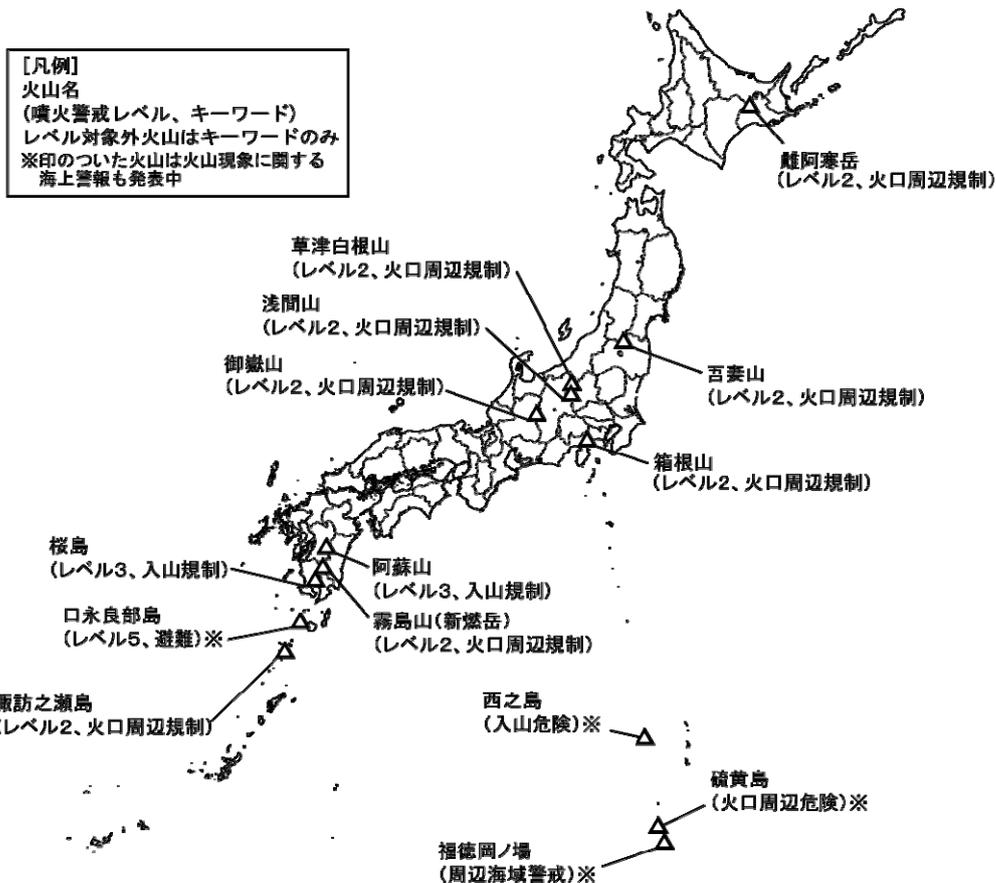


図1 火山現象に関する警報を発表中の火山

【各火山の活動状況及び警報・予報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、警報・予報事項に変更はありません。

雌阿寒岳【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

10月1日に実施した現地調査及び上空からの観測（海上保安庁の協力による）では、今年7月の現地調査と比較して、ポンマチネシリ第4火口北壁における地熱域のわずかな拡大や、96-1火口の噴煙の勢いの増大を確認しました。また、昨年10月の現地調査と比較し96-1火口底の温度上昇を確認しました。

その後、11月2日から5日に実施した現地調査では、10月の現地調査と比較してポンマチネシリ第4火口の地熱域の広がりに変化はなく、更なる拡大は認められませんでした。その他の火口の状況についても特段の変化はみられませんでした。

また、96-1火口の噴煙の勢いの増加や強い刺激臭を感じており、火山ガスの放出量が増加している可能性があります。

全磁力連続観測によると、全磁力は2014年3月以降概ね横ばいで推移していましたが、2015年3月中旬以降は減少傾向を示しています。このことから、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下では、2015年3月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする体には感じない微小な火山性地震は、4月中旬以降増減を繰り返しながら多い状態となっていました。8月以降徐々に減少してきており、8月下旬以降は1日あたり概ね10回以下と少ない状態で経過しています。

12日19時00分頃に振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を観測しましたが、微動発生の前後で噴煙の様子に特段の変化は認められず、空振計及び地殻変動のデータにも変化はありませんでした。

GNSS¹⁾連続観測では、ポンマチ南2と飽別川上流を結ぶ基線と、雌阿寒温泉南2と飽別川上流を結ぶ基線がわずかに伸張しています。このことから、雌阿寒岳の山体がわずかに膨張している可能性があります。

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

吾妻山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。

遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは100m以下で経過しました。また、2015年1月以降確認している大穴火口外の噴気が引き続きみられており、噴気活動はやや活発な状況が続いています。

11日から12日及び14日から15日に現地調査を実施しました。大穴火口内及びその周辺で2013年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認しました。また、一切経山西側の登山道沿いで弱い噴気を観測しました。

大穴火口周辺で実施している全磁力繰り返し観測によると、大穴火口周辺の地下での熱活動が活発化している可能性が考えられます。

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は、7回（9月：96回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

浄土平の傾斜計では、2014年4月以降、緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動が継続していましたが、2015年7月頃から停滞しています。GNSS¹⁾連続観測では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年6月頃から停滞しています。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014年12月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動が見られていましたが、2015年7月頃から停滞しています。

大穴火口から概ね500mの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

草津白根山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

9月29日から10月2日にかけて実施した現地調査では、前回（5月12日）の観測と同様に、引き続き湯釜火口壁北側、北側噴気地帯に地熱域が認められました。北側噴気地帯の噴気活動については、

前回の観測と比べて活発になっていました。また、13日に陸上自衛隊東部方面航空隊の協力により実施した上空からの観測でも前回（3月16日）同様に、湯釜火口壁北側で高温域を確認しています

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分に火山活動の活発化を示す変化が継続しています。全磁力連続観測及び繰り返し観測で、2014年5月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞しています。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しましたが、2014年8月下旬以降概ね少ない状態で経過しています。

地殻変動観測によると、2014年4月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていましたが、2015年4月頃より停滞しています。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

浅間山[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

14日に陸上自衛隊東部方面航空隊の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口内の火口底中央部及びその周辺に引き続き高温領域が引き続き認められました。前回（6月24日）と比較し、山頂火口内の高温領域の分布に大きな変化はみられませんでした。火口内や火口周辺に新たな噴出物や変色等は確認されず、火口内の地形に変化はみられませんでした。

8日、15日及び26日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり600～2,000トン（前回9月30日：1,900トン）と引き続き多い状態で経過しています。

山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を引き続き観測しており、噴煙量は6月以降、増加傾向がみられます。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いています。発生した地震の多くはBL型地震（低周波地震）でした。7月に増加した周期の短い火山性地震（BH型地震）は、8月以降減少しています。震源の浅部への移動等の変化はみられていません。火山性微動は、8月19日以降、やや増加していましたが、9月以降少ない状態で経過し、10月は発生しませんでした。

光波測距観測では、6月頃から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂部のごく浅いところの膨張によるものと考えられます。傾斜計による地殻変動観測では、6月上旬頃からの穏やかな変化が継続しています。国土地理院のGNSS¹⁾の観測でも、5月頃からわずかな伸びがみられます。これらは浅間山の西側のやや深いところを膨張源とする変化によるものと考えられます。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

御嶽山[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

7日に実施した現地調査では、山頂の火口列で白色噴煙の活動が継続していました。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状況には戻っていません。

低周波地震を22日に1回観測しています（9月：0回）。この地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていません。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年（2014年）10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。

一方、噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

箱根山[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

箱根山では、大涌谷で7月1日に発生した噴火以降、噴火は観測されていません。

9日に実施した現地調査では、これまでの調査と同様に15-1火口及び15-2~4の各噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴煙や噴気が勢いよく噴出しているのを確認しました。前回(9月29日)の調査と同様に、15-1火口内部で土砂噴出とみられる現象を観測しました。現象の規模は小さく、噴出の高さは火口縁以下で、観測中火口縁から外へ噴出物が飛散することはありませんでした。15-1火口の大きさ及び形状の変化は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、引き続き15-1火口の東側で高温領域を確認しました。大涌谷全体の状況としては、前回の現地調査の時と比較して、噴煙や噴気の量に大きな変化はみられていません。

火山性地震は7月以降減少しており、少ない状態で経過しています。低周波地震及び火山性微動は観測されていません。

気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計及び気象庁の湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では8月以降火山活動に関連する変動は見られていません。国土地理院のGNSS¹⁾連続観測によると、箱根山周辺の基線で4月から山体の膨張を示す地殻変動がみられていましたが、8月下旬頃からその傾向が停滞しています。

地震活動には引き続き低下傾向がみられるものの、4月の活動活発化以前の程度に戻るまでは、引き続き大涌谷周辺の火口や噴気孔での小規模な噴火の可能性があると考えられます。また、噴気活動も緩やかな低下傾向がみられるものの活発な状態です。

大涌谷周辺の想定火口域では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、風下側では火山灰や風に流されて降る小さな噴石や火山ガスに注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

西之島[火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。13日に海上保安庁が、18日に第三管区海上保安本部が、29日に海上自衛隊が上空からの観測を実施しました。

13日の観測では、第7火口で小規模な噴火を3~5分毎に繰り返しているのが確認されました。

溶岩流出が続く火砕丘北東斜面下では、溶岩原の厚みが増しており、溶岩流出口から溶岩流が北方向及び西方向の2方向へ流下していました。

海岸線に到達した溶岩流は認められず、西之島の海岸線に顕著な変化はありませんでした。

西之島の海岸には、幅約200~500mの青白色の変色水が分布していました。

18日の観測では、第7火口から約5分間に1回程度の間隔で灰色の噴煙を噴出していました。噴火の継続時間は約1分でした。西之島周辺の海岸付近に薄い黄緑色の変色水域が分布していました。

29日の観測では、観測中(11時50分~11時53分)に第7火口の噴火は確認できませんでしたが、火口付近に弱い噴気が認められました。西之島の海岸に沿って幅約50m~200mの黄緑色の変色水が分布していました。

13日及び18日の観測時に、西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある海岸線に平行して走る断層やクラックは認められませんでした。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒してください。

硫黄島[火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は2回発生しました。火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに異常は認められませんでした。

GNSS¹⁾連続観測によると、地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015年3月頃から隆起速度が上がっています。また、国土地理院のGNSS¹⁾観測によると2015年4月中旬頃から西向きの変動速度が上がっていましたが、9月以降は停滞しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場[噴火警報(周辺海域)及び火山現象に関する海上警報]

18日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水等は認められていません。これまでの観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

阿蘇山[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

中岳第一火口では、23日02時59分と06時02分に小規模な噴火が発生しました。02時59分の噴火では、噴煙が火口縁上1,400mまで上がり、火口周辺に大きな噴石が飛散し、06時02分の噴火では、噴煙が火口縁上1,600mまで上がりました。

23日に実施した現地調査では、中岳第一火口周辺の北西から西にかけて、飛散した大きな噴石を確認しました。

火山性微動の振幅は消長を繰り返しながら19日以降大きな状態で経過していましたが、23日02時27分に発生したごく小規模な噴火以降、概ね小さな状態となりました。

孤立型微動は23日の噴火前まで概ね多い状態が続きました。火山性地震は時々発生しました。

二酸化硫黄の放出量は、1日あたり300~1,900トンでした(9月:900~1,900トン)。

傾斜計では、火山活動に起因すると考えられる特段の変化は認められませんでした。GNSS¹⁾連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、8月頃からわずかな伸びの傾向が認められます。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いており、当分の間は9月14日と同程度の噴火が発生する可能性があります。火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

霧島山(新燃岳)[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が時々発生しました。火山性地震の月回数は50回(9月:7回)でした。このうち、30日(18回)と31日(17回)に一時的に増加しました。火山性微動は観測されませんでした。

GNSS¹⁾観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられます。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から

概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。降雨時には、泥石流や土石流に注意してください。

霧島山(御鉢)[噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

7月頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますが、10月の月回数は16回で前月(9月:50回)と比べ減少しました。火山性微動は観測されませんでした。

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、7月頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺とその他)[噴火予報(活火山であることに留意)]

19日15時46分頃に継続時間が約3分30秒の振幅の小さな火山性微動が発生し、31日13時04分頃にも継続時間が約2分30秒の振幅の小さな火山性微動が発生しました。この周辺で火山性微動が発生したのは2015年9月2日以来です。

19日及び31日の火山性微動の発生に伴い、韓国岳北東観測点の傾斜計で、硫黄山の北西方向がごくわずかに隆起するような変動を観測しました。

火山性地震の回数は火山性微動の発生に伴い19日(14回)と31日(17回)に一時的に増加し、月回数は68回(9月:28回)でした。

20日、28日、31日に実施した現地調査では、硫黄山及びその周辺では噴気は認められませんでした。赤外映像装置による観測では、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。なお、硫黄山の

一部で引き続き硫化水素臭が認められました。

GNSS¹⁾ 連続観測によると、えびの高原周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向が認められます。

噴気は認められませんが、7月頃から振幅の小さな火山性微動する等、火山活動がやや高まってきていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

霧島山では、11月2日01時頃から、大浪池（おおなみのいけ）の南西約2km付近が震源と推定される地震活動がありました。01時43分及び08時08分に発生した地震では、霧島市牧園町付近で体を感じる揺れがあったとの通報があり、08時08分の地震では霧島市横川町中ノで震度1を観測しました。2日の大浪池の南西約2km付近の地震回数は20回でした。

11月2日に実施した現地調査では、大浪池及びその周辺では熱異常域や噴気等は観測されませんでした。傾斜計では、地震に伴う変化以外はみられず、新燃岳、御鉢、えびの高原（硫黄山）周辺では、この地震に伴う火山活動の変化はみられません。

桜島[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

昭和火口では、ごく小規模な噴火が時々発生しましたが、爆発的噴火は発生しませんでした。南岳山頂火口では、噴火は観測されていません。

火山性地震の月回数は47回で、前月（9月：569回）と比べて減少しました。震源は南岳直下の深さ2～3km付近と、南岳の西約2kmの深さ4～6km付近、及び南岳の東約2.5kmの深さ5km付近に分布しました。

桜島島内での傾斜計、伸縮計による観測では、8月15日の急激な山体膨張を示す変動以降、大きな変化はみられません。GNSS¹⁾ による観測では、島内でみられていた2015年1月頃から山体膨張の傾向は、8月中旬の急激な山体膨張の変動以降、山体の収縮傾向に転じています。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）は、8月中旬の急激な変動以降停滞していますが、その後の桜島山体に収縮傾向がみられることから、2015年1月からの膨張の傾向は続いているものと考えられます。

7日と13日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり70トン（9月：80～400トン）と、少ない状態で経過しました。

桜島の火山活動は低調となっていますが、これまでも繰り返し噴火活動が続いており、長期的な始良カルデラの膨張が認められます。このため、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

口永良部島[噴火警報(噴火警戒レベル5、避難)及び火山現象に関する海上警報]←21日に噴火警報(噴火警戒レベル5、避難)及び火山現象に関する海上警報を切り替え

新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

14日に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が実施した観測では、二酸化硫黄放出量は1日あたり300トン（前回9月12日：100トン）とやや少ない状況でした。

15日に実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られませんでした。また、赤外線熱映像装置による観測では、2015年3月頃から5月29日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の領域の温度は、低下していました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

地殻変動観測では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められません。

火山活動が高まる傾向はみられないことから、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものと考えられます。しかしながら、5月29日の噴火前にみられた島の隆起が維持されていることから、引き続き噴火の可能性があり、火砕流にも警戒が必要と考えられます

このことから、平成27年10月21日に噴火警報（噴火警戒レベル5、避難）を切り替えました。

火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがありますので、噴火に警戒してください。

諏訪之瀬島[火口周辺警報(噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

御岳火口では、2 日と 13 日及び 31 日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が最高で火口縁上 800m まで上がりました。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、2 日の噴火に伴って鳴動が確認されました。爆発的噴火は発生しませんでした。同火口では、夜間に高感度カメラで火映を観測しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

(火山の順は活火山総覧(第 4 版)による)

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

資料1 全国の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況のまとめ（平成27年11月10日現在）

(1) 主な活火山

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	雌阿寒岳	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年9月29日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年10月17日噴火予報(平常) 2008年11月17日火口周辺警報(火口周辺危険) 2008年12月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年4月10日噴火予報(レベル1、平常) 2015年7月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	大雪山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	十勝岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年12月16日噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年2月24日噴火予報(レベル1、平常)
	樽前山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	倶多楽	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年10月1日噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)
	有珠山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2008年6月9日噴火予報(レベル1、平常)
	北海道駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	恵山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
東北地方	岩木山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	秋田焼山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2013年7月25日噴火予報(レベル1、平常)
	岩手山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	秋田駒ヶ岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年10月27日噴火予報(レベル1、平常)
	鳥海山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	栗駒山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	蔵王山	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2015年4月13日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年6月16日噴火予報(活火山であることに留意)
	吾妻山	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2014年12月12日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	安達太良山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)
	磐梯山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2009年3月31日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
関東・中部地方 関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	草津白根山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日噴火予報（レベル1、平常）切替 2014年6月3日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	浅間山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日噴火予報（レベル1、平常） 2015年6月11日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
	御嶽山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2008年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2014年9月27日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2014年9月28日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年1月19日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年3月31日火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2015年6月26日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	白山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2015年9月2日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2009年3月31日噴火予報（レベル1、平常） 2015年5月6日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年6月30日火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2015年9月11日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2011年3月31日噴火予報（レベル1、平常）
	伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
新島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
神津島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
三宅島		噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2015年6月5日噴火予報（レベル1、活火山であることに留意）
八丈島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
青ヶ島		噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月1日噴火予報（平常）
西之島		火口周辺警報（入山危険）	2007年12月1日噴火予報（平常） 2013年11月20日火口周辺警報（火口周辺危険） 2014年6月3日火口周辺警報（入山危険） 2014年6月11日火口周辺警報（入山危険）切替 2015年2月24日火口周辺警報（入山危険）切替
硫黄島		火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日火口周辺警報（火口周辺危険）
福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月1日噴火警報（周辺海域警戒）	

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常)
	九重山	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	阿蘇山	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2011年5月16日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年6月20日噴火予報(レベル1、平常) 2013年9月25日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年10月11日噴火予報(レベル1、平常) 2013年12月27日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2014年3月12日噴火予報(レベル1、平常) 2014年8月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2015年9月14日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	雲仙岳	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(新燃岳)	火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常) 2008年8月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年10月29日噴火予報(レベル1、平常) 2010年3月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年4月16日噴火予報(レベル1、平常) 2010年5月6日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2011年1月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2011年1月31日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年2月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2011年3月22日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年6月26日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2013年10月22日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制)
	霧島山(御鉢)	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(レベル1、平常)
	霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	噴火予報(活火山であることに留意)	2007年12月1日噴火予報(平常) 2014年10月24日火口周辺警報(火口周辺危険) 2015年5月1日噴火予報(平常)
	桜島	火口周辺警報(レベル3、入山規制)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年2月3日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年2月20日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年4月8日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年7月14日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2008年7月28日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2008年8月28日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年2月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年2月19日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年3月2日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2009年3月10日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2009年4月24日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2009年7月19日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2010年9月30日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2010年10月13日火口周辺警報(レベル3、入山規制) 2012年3月12日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2012年3月21日火口周辺警報(レベル3、入山規制)切替 2015年8月15日噴火警報(レベル4、避難準備) 2015年9月1日火口周辺警報(レベル3、入山規制)
	薩摩硫黄島	噴火予報(レベル1、活火山であることに留意)	2007年12月1日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2012年11月29日噴火予報(レベル1、平常) 2013年6月4日火口周辺警報(レベル2、火口周辺規制) 2013年7月10日噴火予報(レベル1、平常)

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況	特別警報、警報及び予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	口永良部島	噴火警報 (レベル5、避難)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年1月25日噴火予報 (レベル1、平常) 2008年9月4日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2008年10月27日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2009年3月18日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年8月4日噴火予報 (レベル1、平常) 2009年9月27日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2009年10月30日噴火予報 (レベル1、平常) 2011年12月15日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制) 2012年1月20日噴火予報 (レベル1、平常) 2014年8月3日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 2014年8月7日火口周辺警報 (レベル3、入山規制) 切替 2015年5月29日噴火警報 (レベル5、避難) 2015年10月21日噴火警報 (レベル5、避難) 切替
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)	2007年12月1日火口周辺警報 (レベル2、火口周辺規制)

注) 警報及び予報の発表履歴欄には、2007年12月1日の火山現象に関する警報・予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示しています。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。

(2) その他の活火山

以下の活火山(*印を除く)では2007年12月1日に噴火予報(平常)を発表しました。また、*印の活火山では、活火山として選定された2011年6月7日に噴火予報(平常)を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火山名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、バルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

注) 2015年5月18日から(平常)は(活火山であることに留意)に変更しました。